

- 全農は、これまで平成7年度にマンゼブ剤(商品名:ペンコゼブ)、平成15年度にアセフェート剤(商品名:ジェイエース)をジェネリック農薬として販売した。これにより各々のオリジナル剤価格より、ペンコゼブは約17%、ジェイエースは約15%の値下げを実現した。
- 今までは日本ではジェネリック農薬開発にはオリジナル剤とほぼ同様の多大な開発コストが掛かり、日本ではジェネリック農薬の開発が進んでこなかった。ジェネリック農薬の割合は、世界では約75%、日本においては約5%。
- 全農はペンコゼブ、ジェイエースの販売に引き続き力を入れるとともに、新たなジェネリック農薬の開発を進める。
- なお、平成30年12月1日から「農薬取締法の一部を改正する法律」が施行され、ジェネリック農薬の開発コストが大幅に削減できる条件が示された。その一方で、同時に農薬再評価制度も導入され、開発には既存農薬の再評価結果を待つ必要もある。

◎ジェネリック農薬の開発・販売

	製品名	有効成分	販売年	備考
ジェネリック農薬	ペンコゼブ	マンゼブ	1995年	<ul style="list-style-type: none"> ○園芸用汎用殺菌剤 ○国内初のジェネリック農薬として開発 ○本剤の販売により価格レベルを従来価格から約17%(当時)引下げ。
	ジェイエース	アセフェート	2003年	<ul style="list-style-type: none"> ○園芸用汎用殺虫剤 ○第二弾のジェネリック農薬として開発 ○本剤の販売により価格レベルを従来価格から約15%(当時)引下げ。

◎世界市場におけるジェネリック農薬の推移

- ジェネリック農薬は世界市場で既にシェア75%に到達。
 - 農薬価格の低減に大きな貢献。
- 世界市場におけるジェネリック農薬の比率(金額ベース)

